

箴言

- 31.01 マサの王レムエルが母から受けた戒めのことば。
 31.02 私の子よ、何を言おうか。私の胎の子よ、何を言おうか。私の誓願の子よ、何を言おうか。
 31.03 あなたの力を女に費やすな。あなたの生き方を 王たちを消し去る者にゆだねるな。
 31.04 レムエルよ。酒を飲むことは王のすることではない。王のすることではない。「強い酒はどこだ」とは、君子の言うことではない。
 31.05 酒を飲んで勅令を忘れ、すべて悩む者のさばきを曲げるといけないから。
 31.06 強い酒は滅びようとしている者に与え、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えよ。
 31.07 彼女はそれを飲んで自分の貧しさを忘れ、自分の苦しみをもう思い出さないだろう。
 31.08 あなたは口のきけない者のために、また、すべての不幸な人の訴えのために、口を開け。
 31.09 口を開いて、正しくさばき、悩んでいる人や貧しい者の権利を守れ。
 * * * * *
 31.10 しっかりした妻をだれが見つけることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。
 31.11 夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。
 31.12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。
 31.13 彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。
 31.14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。
 31.15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使いの女たちに用事を言いつける。
 31.16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、
 31.17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。
 31.18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。
 31.19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。
 31.20 彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。
 31.21 彼女は家の者のために雪を恐れぬ。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。
 31.22 彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の撚り糸でできている。
 31.23 夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。
 31.24 彼女は亜麻布の着物を作って、売り、帯を作って、商人に渡す。
 31.25 彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日待つ。
 31.26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。
 31.27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。
 31.28 その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。
 31.29 「しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている」と。
 31.30 麗しさはいつわり。美しさはむなし。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。
 31.31 彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。

シラ書

- * * * * *
 26.01 良い妻を持った夫は幸せ／彼の寿命は二倍に伸びる。
 26.02 健気な妻は夫を喜ばせ／彼は、平穩無事に生涯を全うする。
 26.03 良い妻は良い分け前／主を畏れる者に分け前として与えられる。
 26.04 金持ちでも貧乏でも、彼の心は豊かで／どのような時も顔は晴れやかだ。
 26.05 私の心は三つのものに不安を感じ／四つ目のものには、顔を向けるのさえ恐ろしい。／町の人々からの中傷、暴徒の群れ／誹謗。これらはすべて、死よりも耐え難いものだ。
 26.06 女どうしの嫉妬は、心痛と悲嘆の種／舌の鞭はこれらすべてに関わる。
 26.07 悪妻は、ぐらぐら揺れる輓／彼女を制しようとするのは／さそりをつかもうとするに等しい。
 26.08 酒飲みの妻は、激しい怒りを招き／その醜態を隠さない。
 26.09 女の淫らな性格は、目のつり上がり具合と／流し目で、分かるものだ。
 26.10 強情な娘には、見張りを厳重にせよ。／さもないと、手ぬるいと見て／それを利用しないと限らない。
 26.11 厚かましい目つきに警戒せよ。／彼女がお前に対して過ちを犯しても、驚くな。
 26.12 喉が渇いた旅人が口を開けて／手当たりしだい／どんな水でも飲むように／どんな杭の前にもしゃがみ込み／矢に向かって矢筒を開く。
 26.13 妻の魅力は夫を喜ばせ／その賢さは、夫を健やかにする。
 26.14 口数の少ない妻は主からの贈り物／作法を身に着けた妻は何ものにも代えられない。
 26.15 慎み深い妻は魅力に溢れ／自制心のある妻の価値は計り知れない。
 26.16 よく整えられた家にいる良い妻の美しさは／主がおられるいと高き所に昇る太陽
 26.17 すらりとした体の上の顔の美しさは／聖なる燭台の上に輝く灯。
 26.18 しっかりしたかかとの上に伸びる美しい脚は／銀の土台の上に据えられた黄金の柱。
 26.19 [子よ、お前の若い盛り、健康に心がけ／余計なことに力を注ぐな。
 26.20 平地をくまなく巡って／所領とする肥沃な土地を探し／お前の素性の良さを信頼して、自分の種を蒔け。
 26.21 そうすれば、お前の子孫は生き長らえて／素性の良さへの確信を保ち、大いに繁栄する。
 26.22 商売女は、唾のようなものとされ／人妻は、相手の男にとって、死の塔と見なされる。
 26.23 律法に背く者には、不信心な妻が与えられ／主を畏れる者には、敬虔な妻が与えられる。
 26.24 恥知らずな女は、不名誉な生活にうつつを抜かし／上品な娘は、夫を前にしても恥ずかしがる。
 26.25 強情な女は犬に等しいものと見なされ／貞淑な女は、主を畏れる。
 26.26 夫を尊敬する女は／誰からも知恵ある者と見られるが／思い上がりのゆえに夫を軽蔑する女は／不信心な妻として皆の評判となる。／良い妻を持つ夫は幸せである。／彼の寿命は二倍に伸びるからだ。
 26.27 甲高い声のおしゃべり女は／戦場で敵を敗走させる／進軍ラッパのようなものと見られ／戦場と同じ生活をすどのような人の魂も／戦乱の中で生涯を送るようなものだ。]